

## 活動状況報告（9月）

学生留学コース 5期生 藤原 香夏

カナダは9月が入学時期にあたるため、今月は新入生歓迎のwelcome イベントが学内で多く開催され、ある種お祭りのような雰囲気がありました。新学期開始後約1週間は”week welcome”と呼ばれ、朝食にパンケーキとソーセージが無料配給、学内の広場に大きな仮設ステージが設置され、学生によるバンド演奏とともに食事やアルコールが提供されるなど、大学の歓迎会とは思えないほどの大きな規模で、これまでの1月から過ごした留学生活とは大きく異なり「ついに大学に入学した」と感じるような1週間を体験しました。

朝食の配給は、新学期が始まり学校に慣れていない学生の負担を少しでも減らすことができるようにという目的で学内の学生組織によって提供されていました。また、大学では新学期の朝食の配布だけでなく、フードバンクという生活に困っている地域の人や学生の中でも特に学費が高い留学生に向けた無料の食料配給サービスもあり、学生の負担を少しでも軽減できるようにと考えられたサービスが多く提供されているように感じます。基本的にカナダは物価が日本より高く、コロナ禍以降はさらに物価が上昇し続けているようです。さらに、私が留学を開始した1月から比較しても10円以上円安が加速しているため、このようなサービスは非常にありがたいものでした。

カナダの大学は5月から8月は夏季休業となり、その期間はいくつかの集中講義のみ開講されるため、履修できる授業はかなり限られていました。今学期から多くの授業の履修が可能となり、私が履修したいと考えていたKinesiology, Sports, and Recreation学部の授業も開講されました。私は今学期3つの授業を履修しており、そのうちのひとつ”Leisure and Human Behavior”というクラスでは、社会心理学の観点から余暇の文脈の中で他の個人、グループ、文化と交流する個人に焦点を当て、余暇の経験と行動に関して検討する授業です。

講義は教授がレクチャーをするだけの一方通行ではなく、学生への問いかけや、学生同士でディスカッションをする時間が設けられるなど参加型の授業が展開されており、他の学生とのディスカッションでは英語ネイティブの学生がほとんどのため、毎回自分自身の英語力に不安になりますがなんとか自分の考えを伝え、他の学生の意見を聞き理解を深めています。授業中の学生の発言は非常に活発で、「質問はありますか？」と教授が投げかけた際には、何人もの学生が手を挙げるなど日本とは違う光景で学生の積極的な姿勢をみて、私も積極的に講義に参加しようという影響を受けています。英語での講義内容を理解するには正直時間がかかります。そのため、講義で理解できなかった部分は教授のオフィスアワーの時間帯に質問をしにオフィスに伺い、再度解説していただき少しでも講義内容の理解を深められるよう努めています。来月は中間試験が控えているため、不安もありますが少しでも良い結果を残せるよう精進します。

引き続き皆様のご支援、応援の程よろしくお願い致します。

